

# 人・ひと・ヒト

河津 修司（かわづ・しゅうじ）氏

南小国町町長



## 小さな町でも 下水道は必要

女性誌などで一躍有名になった黒川温泉を抱える熊本県南小国町。環境や水を大切にする地域の意識から、汚水処理、特に下水道をはじめとする集合処理事業に寄せる期待は大きい。ところが、新政権の行政刷新会議による事業仕分けで、下水道事業は「地方移管」と仕分けられ、地方は合併浄化槽で十分であるという意向が示された。それによる今後の事業への影響を、首長としてどのように捉えているのか、公務の合間をぬって伺った。

（月刊下水道編集部）

### 補助金がないと事業が進まない

補助金がなくなり、財源を地方に移管するという事業仕分けについて、どのように捉えていますか？

補助金がなくなり、交付金のようなかたちで渡された場合、トータル額はどのようになるのでしょうか？ おそらく減額するのでしょうか？ そうなると、町民が望んでいるインフラ整備は遅れてしまいます。南小国町<sup>みなみおくにまち</sup>の年間予算額は、32～33億程度です。そのうち補助金が3億円なので、補助金なくなると、基盤整備の事業が今までと同じようには進まなくなります。当然、新規事業に着手

することができなくなります。それが心配です。

南小国町は、緑と水のきれいな観光と農林業を主産業とする人口約5,000人の町です。小さな町ですが、やるべきことがたくさんあります。まず、純農村として、第一次産業としての農業や林業などの振興を考えなければなりません。それから、人口が微増しているとはいえ、高齢化が進んでいるので、医療や福祉にも力を入れなければなりません。そのような状況で財源が地方に移管されたとしたらそこにどんどん予算がつかぎ込まれて、インフラ整備は後回しになるでしょう。

町は、筑後川の源流域にあることから、きれいな水を下流域に流すことが私たちの責務だと考えています。私は“きよらの郷づくり”を方針に掲げていますから、住民も、きれいな水を流すべき

だという意識は高いのです。平成20年度末の汚水処理整備率は70%。汚水処理整備の優先度は決して低いわけではないので、後回しにしたいのではありません。

## コストは高いのか

下水道は、「コストが高い」と評価されています。

経済的に、簡単には水洗化できないというお年寄りもいるのは確かです。ですが、合併浄化槽であっても、公共下水道であっても加入料や使用料などの住民の負担はほぼ同じになるように、不公平感がないように設定しています。ただ、町が負担する建設コストで比較すると、下水道のほうが高くなります。管きよの建設費や起債の償還金分が加わりますので。

一般の方は、下水道について非常に大規模な施設だとイメージされているのではないのでしょうか？ 大規模施設をイメージされているから、5万人以下の都市では下水道でないほうが良いと思われるのではないのでしょうか？

確かに、人口が多い大都市の処理場は大規模ですが、私どもで採用しているのは非常にコンパクトな施設です。維持管理費が低く抑えられるということが魅力の一つで、現在、管理費はすべて使用料でまかっています。

脱臭効果の高い方式を採用して集落の周辺に建設しているので、管きよ延長を抑えることができます。いろいろな検討をして、できるだけ低コストになる選択をしていますので、刷新会議で示されたような大きな差ではありません。臭気が発生しにくい処理方式を採用しているところでは、施設の周辺でも新しいアパートが建設されて、人も住んでいます。

## 下水道が一番きれい

町の負担が増えても、下水道で整備したいと

思う区域があるのはなぜですか？

水を浄化するという意味では、やはり公共下水道が一番きれいだからです。

私自身の自宅は合併浄化槽で、了解をもらって農業用水路に放流しているのですが、基準は満たしているけれども、完全には臭いが消えた状態にはならない。放流先で、やっぱり臭うんですよ。都会の人には気にならない程度かもしれないけど、澄んだ空気のなかでは気になりますね（笑）

それから合併浄化槽の場合、管理面でも気になります。個人に管理を委ねると、なかなかしっかりと清掃を行ってこないケースもあります。ですから私どもの町では、7年ぐらい前、下水道の供用開始と同じ時期から町営で管理しています。

町営で住宅密集地にまで浄化槽を設置して管理するとなると、委託しているとはいえ、非常に煩雑になり、1軒1軒を指導するのもたいへんです。エリアを決めて一斉に汚泥を引き抜こうと思っても、予定が合わないところも出てくるでしょうし、そうなるかえって効率が悪くなります。ですから、点在する家は合併浄化槽、集落としてまとまっていれば集合処理というように、地域ごとにふさわしい処理形態をそれぞれ総合的に判断して進めています。田舎であっても住宅の密集地があり、そこにはどうしても下水道が必要なのです。

平成19年度に供用開始した「みなみ浄化センター」は、地方共同法人の日本下水道事業団に委託して建設しました。小さなまちには、技術的な専門家がいないので、細かな質問をされる会計検査



南小国町みなみ浄化センター [645m<sup>3</sup>/日]

で説明するのはなかなか難しい。でも、事業団に委託すればそのフォローもしてくれるので助かると職員は話しています。また、特定の民間会社に委託するのに比べて、地方共同法人のほうが議会もすぐに納得してくれます。

放流水質は、最新計測値でBOD 1.7mg / ℓ、非常にきれいです。

これから新規で下水道整備に着手したいと思う区域もあるそうですね。

まだ整備していない黒川温泉を公共下水道で整備したいと考えています。この温泉街は、10年以上前から環境にやさしい石けんを利用したり、木を植えたりリサイクルを進めるなど、環境への意識は高く、下水道でさらに環境を良くしたいという願いを持っています。

20年ほど前に、下水道事業の説明をしたときは、「そんなに費用がかかるなら浄化槽にしよう」と温泉街の人たちが判断したので、今はほとんどの旅館が個人的に浄化槽を設置しています。ですが、この20年の間、さまざまな技術開発も進み、起伏の多い地形にあった配管方法やコストを抑えた施工方法なども登場するようになりました。「今の負担だったら下水道のほうがいい」という要望も聞いています。

25年度までは、建設中の区域が終わるので、そろそろ検討に入ろうと思っていたのですが……。だんだん厳しい状況になっているなか、新しい政権になって、将来的な財政の見通しが見つからないので、もうしばらくようすを見ないと検討に入ることではできませんね。

## 地方に任せ過ぎるのも良くない

地域主権についてどのように考えますか。

地域に任せるといのは、どういうふう任せられるのか。国土交通省もどう考えているのか、わかりません。政治家以外、政策的な話が聞

けないので、どこの省庁に行っても困っているし、私たちも情報がとれないのです（苦笑）。

自民党政権の時、三位一体改革の時にも「地方分権」という考えが示されましたが、その時にも言ったことですが、地方に任せ過ぎるのは良くないと思っています。補助金行政でなければ、会計検査などを行うことはなくなるのかもしれませんが、無駄遣いをなくすためには、チェック体制は絶対必要です。

私は、これまで学校づくりには力を入れてきましたが、いわゆる“箱モノ”を造ることはしていません。町民ホールとか、温泉博物館とか（笑）ですが、そういうことが好きな人もいることは、皆さんもご存知でしょう？ 首長がどんなにやりたいといっても、「財政を考えたら無理じゃないですか？」とか、「この町には合わないんじゃないですか？」とかそういうことを、上の立場から厳しくチェックしてくれる体制が必要だと思います。もちろん、本当に住民のためになることならいいんですが、無駄なことをやっているケースもありますよね。ですから、地方に任せればいいということではないと思います。

国に希望することはありますか？

地方財政は厳しいですから、やはり、財政支援をしっかりとお願いしたい。この状況に逆行するようですが……補助金額を増やしてほしいです。そうすれば、短期間で環境を整備することができます。

どこでもそうですが、川の上流にあるのが財政面で力のない小さな町村です。その住宅密集地では、水環境を守るのに最適な下水道を造るべきだと思っています。

そうした公共性を考えたとき、小さな町村でも「下水道を早く造ってほしい」と待っている人たちがいるわけですから、国からの財政的な支援を大きくしてほしいというのが、私たちの願いです。

厳しい女性の視点で選ばれている温泉街です。観光地としてより多くの方に訪れてもらうためにも、環境を大切にしていきたいです。